



新たな『共生』の社会と地域日本語教育の役割

山田 泉 (にんじんランゲージスクール校長)



1 東京日本語ボランティアネットワークの四半世紀

東京日本語ボランティアネットワークの25周年、おめでとうございます。記念号に寄稿させていただくことに対し、たいへん光栄に思うとともに、わたしのような者がこのような大役を果たすことが不遜ではないかと悩ましく思います。わたし自身は、1979年と記憶していますが、中国帰国者とそのお連れ合いのかたと、中国からの訪問学者の先生がたとに、都内2箇所の教室で日本語学習のお手伝いをしたのが日本語ボランティアとしての最初の体験でした。その後も紆余曲折を経ながら日本語教育にかかわっていましたが、1993年のTNVNの立ち上げの会にたまたま「遭遇」し、その熱気に圧倒されました。それから今日まで、TNVNに直接、間接にかかわらせていただけてきました。

TNVNの四半世紀の歩みは、日本語学習支援活動だけでなく、その基底に

ある地域社会や日本という国を、海外につながる当事者市民とホスト側市民とがともにどのような社会にしていくなすべきかを考え、声を上げていく取組でもあったと考えます。

2 現在、新たなエポックを迎えて

今年(2018年)6月、政府によるいわゆる「骨太の方針」が示され、来年度から「特定技能」という単純労働に従事する労働ビザが新設されることが閣議決定し、まさに現在、国会での審議が続いています。現在の入国管理局が500人規模の庁に昇格することが目指されています。政府は「移民」政策ではないとしています。多くの識者からは、多文化社会に向けた構造変革について、官民挙げて真剣に議論していかなければ、将来に禍根を残すことになるとの指摘があります。

3 地域日本語教室と新たな日本語学習支援ボランティアにお願いしたいこと

これまで、海外につながる人たちの日本語学習は、国も自治体も「ボランティア任せ」と言ってもよいような形で丸投げしてきました。もちろん国も自治体も海外につながる人たちが日本語を習得することの必要性は十分に理解しながら、適切な予算措置を怠り、「国策ボランティア」に役割を肩代わりさせてきたのです。それでありながら、「生活者としての外国人」当事者のアドボカシー*であるボランティアの声に

耳を貸そうとはしてきませんでした。現在、新たなエポックを迎えながら、このような状態がさらにつづいていくのでしょうか。

スイスの作家であるマックス・フリリッシュという人の有名な言葉に、「労働者を呼んだのに、来たのは人間だった」というものがあります。まさに当該社会が移住労働者に頼るならば、その人々を生身の人間として処遇する決断が必要だという戒めの言葉です。その処遇の中心に言葉の問題があります。当事者への母語対応やそれらの人々が子どもや孫に母語を継承することへの支援、子どもも含めすべての移住者への社会参加のための日本語習得支援などです。これらの人々は、人間として母国の人々とも日本の人々ともつながりながら自己実現の過程を歩んでいく存在です。

さて、このような現状において、日本語ボランティア第一世代であるわたしたちは、残念ながら年を取り、新たな世代のボランティアのみなさんにその役割を受け継いでもらざるを得ません。当事者の人々とともに、この地域社会や国がどうあったら誰もが暮らしやすいのか、地球社会がどうあるべきか、ともに学び合いながら、社会に対し声を届けていってほしいと思います。政治的でないことは、時の政権を肯定するという意味で政治的です。まさに、みなさんに政策提言をしていってほしいと思います。

編注*擁護者

夜間中学と外国に つながる子どもたち

寄稿 和島 直樹 葛飾区立双葉中学夜間学級教諭



和島教諭

「夜間中学」と聞いて皆さんは何を思い浮かべますか？
年配の方がコツコツ勉強しているところでしょうか？それ
も正解！でもまずは、夜間学級ではこんな会話がある
ということをご紹介します。

「先生、私の国ではこんな挨拶をしますよ」
「今日の給食おいしいですね。これは何という料理です
か？」・・・

そうなんです、今は外国から来て学ぶ方(日本国籍で
外国にルーツを持つ生徒を含む)が多い学校です。本校
(葛飾区立双葉中学校)夜間学級の生徒中、約8割が外国
人で、ネパール、中国、フィリピン、韓国、タイなどの
国から来て学んでいます。

さまざまな事情で義務教育を終えていないか、または
十分に学ぶことができなかつた方が門をたたきます。最
近では不登校だったのに卒業証書をもって来た、実質
上通っていない「形式卒業」の若い日本人生徒も学
び直しに来ています。

夜間中学は現在全国に31校、東京都には8校あります。
しかし、1校も設置されていないところも多く、北海道、
東北、中部、四国、九州、沖縄は「空白区」となって
います。

戦後、家庭事情・経済事情により昼間働かざるを得な
い学齢の中学生のために、「二部授業」として、夜の学
びの場を確保する目的で始まったのが夜間中学です。

「夜間中学は時代を映す鏡」といわれています。日韓
基本条約の締結で、学びの保障のために在日の方を受け
入れた時期や、日中国交正常化で残留孤児・残留邦人
の方の日本語の学びの場になったこともありました。そ
して、今は国際結婚の家族や特に就労ビザで日本に来た
人の家族が来ることが多いです。このような方たちを私
たちは「新渡日外国人」と言っています。

夜間中学は「公立の中学校夜間学級」ですから、昼の
学校と同じように9つの教科学習を行います。外国籍生
徒が多い中、日本語が不十分な生徒のための日本語学
級が設置されているところもあります(都内8校中5校)。本
校にも設置されており、4学級展開で習熟度別に分けて
学んでいます。日本語の上達に合わせて9教科の勉強を
する通常学級に移行します。

夜間中学は勉強だけでなく、運動会や文化祭、遠足、
避難訓練などの諸行事も実施されています。運動会は都
内の8校が合同で(会場は持ち回り)昼間に開催されま
す。日本の方は学校の集団生活のやり直しを、外国の方
は学校生活から日本の習慣や文化を学びます。

また、東京都ではおいしい夜の給食が提供されている
学校が多くあります。

今、夜間中学には追い風が吹き始めました。2015年
には、文科省が長年の懸案だった、既卒(不登校等で形
式卒業)の生徒の再入学を認め、2017年には夜間中学
を初めて法的に規定した「義務教育機会確保法」を施行、
そして政府は最低各県1校、夜間中学を設置するよう施
策を後押ししています。

その流れの中で、来春には埼玉県の川口市と千葉県
の松戸市に新規の夜間中学開校を控えていて、少しずつ
夜間中学のことが世の中の方に認知されつつあります。

しかし、拙い私の説明ではよくわからないことでは
しょう(笑)。「百聞は一見に如かず」です。是非、双葉中
に見学にいらしてください。ご連絡いただければ随時見
学可能です。

●連絡先：葛飾区お花茶屋1-10-1
●電話：03-3602-7979



始業式



都内8校合同運動会



紙 上 教 材

ぼ う ね ん かい

忘 年 会



12月を 師走と いいます。師走になると、忘年会が あちら こちらで あります。一緒に 仕事をしている人や、友達や、同じ趣味の人などが 集まって、お酒を 飲んだり、美味しい物を 食べたり します。家族でも 忘年会を します。

忘年会に 出席した 人は、皆と 飲んだり 食べたり 会話を 楽しんだり します。一年間、一生懸命 頑張った事や 嬉しかった事などを 話します。嫌な事や 悲しい事、大変だった事などは、話をして 忘れます。そして、新しい気持ちで 新年を 迎えます。

会社の 忘年会では、自分より 上の 人や 偉い人に、自分が 思っている事や 考えている事を 言っても いいと いいます。これを「無礼講」と いいます。只、「今日は 無礼講」といっても、失礼な事を 言ったり したり しない方が いいです。



忘年会の 料理で 人気があるのは「鍋料理」です。寒い日に、今日は 鍋を 食べよう とか、鍋にしよう という話を 聞きませんか。面白い 言い方 ですね。



鍋料理には 色々な 種類があります。寄せ鍋、水炊き、おでん、すき焼き、しゃぶしゃぶなどは 人気 のメニューです。皆さんの 本国 には どんな 鍋料理が ありますか。日本では、韓国の チゲ、タイの タイスキ、スイスの フォンデュ、フランスの ブイヤベースなどが 有名です。

海外でも Annual Dinner や Year End Party がありますが、日本の忘年会とは少し違うようです。生活習慣や考え方の違いが出て面白いと思います。学習者の国では、どんな年末・年始を過ごすのでしょうか。この教材を使って話し合ってみてはどうでしょう。よいお年をお迎えください。

TNVNわかる日本語研究会 行事部会作成

「普通」や「標準」はない！ ダイバーシティ*のお話 その1

日本語教師 金子広幸

紙上
講座

学生に言われて困るのはカタカナ語についてです。「どうしてこんなに変な発音になったの？」と爆笑されますし、クラスでも私が「これは日本語の言葉です」と宣言しても、「英語がわかっているでも全く違う言葉に聞こえる」と言われます。その発音の不思議さが奇妙でたまらないようなのです。

それなら、彼らが話す言語では、外国語はどのように扱われているのでしょうか。まず、中国語に取り込まれた外来語のことからご紹介しましょう。「百老匯」「麥當勞」「田徑」

香港や台北の街角を歩いていると、こんな漢字を見かけます。中国語には発音表記として使用する拼音（ピンイン）や注音（ウタノヒ）以外の表記は、漢字しかありません。だから、外国語からの借用語は、漢字で表しますが、取り入れ方を大別すると「音訳」と「意識」があります。漢字の音を使って表す「音訳」と、外国語の概念を、同じ漢字を使う日本語の漢字語から借用したり、「意識して」新しい漢字語彙を作ったりしました。

最初見たとき、この「百老匯」は、

“匯”が交換比率、つまりレートという意味を表すので、「お年寄りの年金をたくさん扱う銀行の名前かな？」と思いましたが、「麥當勞」は“麥”が麦の旧字体なので、農協の支部なのかと思いました。

この「田徑」は、学生の趣味を聞いたときに出てきたのですが、この人に漢字で書いてもらった時、趣味は家庭菜園なのかと思いました。

中国語をご存じの方はきっと笑いながらここまで読んでくださったことでしょう。

問題はここからです。ある日台湾の古い友人が東京に滞在することになり、「有名な唐吉軻徳の店はどこにあるのか」と私に聞くのです。発音はTáng jí kē dé、日本人の耳には「タンチーカーター」と聞こえます。これが有名なスペインの「ドン・キホーテ」のことだと気付くまでとても時間がかかりました。

上述の音訳であるはずの「百老匯」と「麥當勞」も、それぞれ日本人には「パイラオフィ」「マイタンラオ」と聞こえ、日本語や英語で呼びならわしている本来の名前からはとても遠く聞こえるのです。

こうなった理由は中国語の借用語の取り入れの歴史にあります。

まず、音訳として取り入れた「百老匯」と「麥當勞」は、はじめ広東語で発音されていました。読者の皆さんにもわかるようにカタカナで書くと、「百老匯」は「バローウェー」、「麥當勞」は「マッドロー」を発音されていたのです。それを広東語から北京の発音に直した時、それぞれ「パイラオフィ」「マイタンラオ」になってしまったというわけです。

・・・え？いいかげん答えを言え？
はい。では正解を申しませう。

「百老匯」と「麥當勞」はそれぞれ「ブロードウェイ」と「マクドナルド」の音訳、「田徑」は「フィールドアスレチック」、つまり陸上競技のことで、意識です。

私の無二の親友にJさんという中国人の友人がいます。日本語の完璧さは折り紙つきで、この私でさえ、ネット上の文字だけのやりとりでは、彼が日本語母語話者ではないと気づかなかつたくらいの人なのです。彼とは、たまに取っ組み合いで、中国語について語り合っています。もちろんこの「百老匯」などについても、「北京の発音パイラオフィから「Broadway」は想像できないんじゃない?!できたら、逆立ちして長江を渡ってやる！」などとJさんにぶつけてみました。

このときのJさんの反応がおもしろかったです。「僕たちはこれが当たり前で育ってきたから全くおかしいとは思っていないんです」と実にこなれた日本語で言うのです。実に憎たらしい。

「ある集団の人にはどんなに不思議なことでも、他の集団の人たちにはごく普通である可能性があることに気づく」、もしかしたらこれは、これから注目される「おもてなし」や「地域日本語支援」で大切なことかもしれないですね。

この話題、今号はここまで。次号に続きます。

編注*多様化



私の国ジャマイカ

こんにちは、私はアンです。ジャマイカから来ました。私の国はラテンアメリカとも言われる中米カリブにあります。隣にはハイチとキューバがあります。

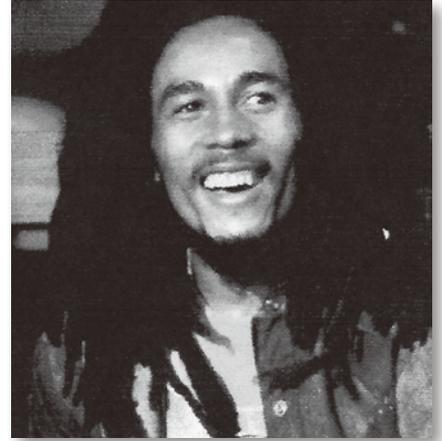
私は首都のキングストンで生まれましたが、ジャマイカの各地にも住みました。キングストンは、成功を求めて努力し、一所懸命働く多くの人々で活気にあふれた街です。

ジャマイカは温暖な日ざしと美しい浜辺で知られています。ジャマイカの典型的な気温は27°Cから29°Cぐらいです。けれど、ほとんどのジャマイカ人は自然災害が起こらない限り、天気は安定しているので天気予報をチェックしません。何故なら、ジャマイカの位置には雪が降りませんから。

ジャマイカでもっともわくわくするものの一つは食べ物です。「ジャークチキン」「アキーアンド ソルトフィッシュ」など、ジャマイカ特有の食欲をそそる料理があります。これらの料理の作り方はジャマイカの子もたちに先祖から伝わっています。例えば、「アキーアンド ソルトフィッシュ」はジャマイカ固有の果物で作ります。

ジャマイカに特有のお菓子があることはあまり知られていません。ジャマイカにはいろ

いろなお菓子があります。例えば、「レッドアンド ホワイト」「ドロップス」で、この二種のお菓子はたいへん有名で、乾燥ココナッツと煮た砂糖を混ぜて作ります。



ボブ・マーリー

ジャマイカを輝かせるもう一つの面は音楽です。人々はたいへん才能に富み、独自のリズムを作りました。私たちの音楽は世界中で愛され、いつも広く受け入れられています。メント（ジャマイカの民族音楽）とスカは、よく知られたレゲエを生み出しました。世界はレゲエをそのジャンルの王と考えて愛しています。レゲエの王は、ボブ・マーリーとして知られたロバート・ネスタ・マーリーです。数年前の早すぎる死にもかかわらず、彼は世界中の多くの人々に今も知られています。ボブ・マーリーは、レゲエを広めることに力を尽くし、多くの人々が今でも彼の音楽を聴いているように彼の遺産は生きています。彼は協調と平和と愛を広げようと世界を回り、日本にもレゲエを伝えました。ある意味でボブ・マーリーは、私にその違いにもかかわらず、日本と日本の人々とのつながりをつけてくれました。

日本とジャマイカでは、異なるものや独自のものがたくさんあります。例えば、日本では日本語（共通語）を話していますが、ジャマイカでは英語とパトワという方言を話しています。他の例では、ジャマイカの食べ物はとても味が濃くて他国の人には少し辛いです。でも日本の食べ物は少々味が薄くて、健康的です。二つの国にはたくさんの違いがあるにもかかわらず、私にとって日本には愛するものがたくさんあります。また、ここに住んでいる間、出会った人々に私の文化を伝えるのが楽しみです。

(原文英語)



アントワネット パルマー

町田日本語の会(町田市)



ジャマイカの果物アキー



アキー アンド ソルトフィッシュ

楽しいひと時になるように

グループ ドメニカ (足立区)

代表/安川 京子 執筆/櫻井 晃

足立区には、18団体の日本語ボランティア教室があります。私たち、グループドメニカはその1団体で、アシジの聖フランシスコ宣教修道女会のシスターを中心としたボランティア教室です。

発足したのは、数十年前にさかのぼり、少人数教室だったようです。現在は、10名前後のスタッフが20名ぐらいの学習者に、毎週日曜日午後、2時間程度の学習・支援活動を行っています。

学習者はいろいろな国から来ています。中国、ベトナム、タイ、ロシア、バングラデシュ、韓国などアジア圏が多いです。年齢もまちまちであり、社会人や主婦・学生・児童等、男女合

せて多岐にわたっています。

ボランティアスタッフも、高齢化してきましたが、幸いにも、新しいスタッフが参加してくれて、活性化しています。

学習の指導方法は、学習者のレベルに合わせて、スタッフ個人が自由に対応支援するスタイルです。

足立区の研修を受講された人や以前に習得された人が、相互に協力して自由活発に支援活動しています。ここを卒業？されて国に戻り、再び来日して顔を出す人や、学校の宿題を黙々と解いたり、自由気ままに、この時間を過



郊外学習

ごしています。

以前は、学習者も長く教室に通っていましたが、最近では、交流自体が短くなって、半年、1年程度で卒業されます。

教室での学習ばかりでなく、郊外学習の場を利用して、ドメニカのモットーである“楽しいひと時を”スタッフ一同、学習者の日本語習得に反映できるよう頑張っていきたいと思っています。

会員団体紹介

Nice to Meet You

清瀬国際交流会 (KIC) には、5事業あり、その中の一つが日本語教室です。KICの設立は1991年 清瀬市が「国際交流事業」の会員を募集し実行委員会を設立。その後市民活動団体として名称も「清瀬国際交流会 (KIC)」となり、市内にある結核研究所の外国人研修生との交流を主に活動をしていた。

日本語教室は、4クラス 1994年：火曜日クラス 1996年：金曜日クラス 1997年：木曜日クラス 2008年：子供クラス を開設した。学習は、原則、毎週1回2時間 1対1で行っています。学習者の増減により原則が崩れることも。学習内容は学習者の様々な希望 (漢字の上達、会話の上達、能力試験合格、学校のプリントを読む等) に沿うようにしています。

■人や国、ちがうからこそ、おもしろい

清瀬国際交流会 (清瀬市)

Kiyose International Club 日本語教室
守屋 祥子

ボランティアは1996年からはじめた「日本語学習支援ボランティア養成講座 (共催：清瀬市) (以降養成講座) を修了しています。学習者は随時受け入れています。現在ボランティア約70名、学習者約60名

日本語教室の大きな事業は、「養成講座」と2003年から今年で16回目になった「外国人学習者による日本語スピーチ発表会」(以降スピーチ発表会)です。「スピーチ発表会」は各クラスの学習者から発表者をつのり、子供クラスは全員、発表内容を担当ボランティアと考え文章を作り発表の練習をし

ます。発表当日はみなドキドキですが、発表を終えた後の誇らしげな顔。日本語が確実に向上したなと感じられ、日本語教室に携わって良かったと嬉しく思うひとときです。

日本語教室は、清瀬駅北口そば、アミュービル6Fで 火曜日・木曜日：10時から 金曜日：19時から 子供：15時半から 開いています。



日本語スピーチ発表会

学習者の声

漢字がわかると、目と耳の両方から情報が入ってきます

河井 イーラ / インドネシア 世田谷日本語クラス(世田谷区)

12年間で、いろいろな先生に習いました。先生たちはみんな優しいです。たくさんの先生たちが、海外生活を経験していて英語が話せるので、大変助かりました。

日本語と英語の違いや文化の違いを教えてくださいました。

このクラスには、中国、韓国、ベトナム、ミャンマー、ネパール、スイス、フランス、ドイツなど、いろいろな国の人が来ました。

私と同じように長く勉強している人がいて、一緒にお昼ご飯を食べたり情報を交換したりします。よく行くレストランの人も友達になりました。

日本語を勉強すればするほど、日本のことがわかって、日本の事が好きになると思います。これまでありがとうございました。これからもがんばって勉強しますので、よろしく願います。

私はイーラです。インドネシアから17年前に主人と結婚をして、日本にきました。最初は主人とは英語で話をしていました。でも、日本語ができないと困るので、日本語の勉強を始めました。12年前から世田谷日本語クラスで勉強しています。

最初は文化日本語の初級、その後は中級の教科書を使って、今は新聞や雑誌の記事を読んで勉強をしています。漢字に興味があったので、毎週漢字の勉強もしました。毎週勉強した漢字を、次の週にテストしてもらいます。漢字を読めるようになり、いろいろな情報がわかるようになってとても楽しくなりました。

外に出かけたとき、目に入る文字の意味がわかるから安心できます。

私は、政治、経済、犯罪、芸能など、いろんなニュースに興味があります。

漢字がわかると、目と耳の両方から情報が入ってきてよくわかります。



前列左から二人目：大平さん 二列目左から三人目：イーラさん

ボランティアの声

大平 栄子 世田谷日本語クラス(世田谷区)

買った物をしてる外国人女性の姿を目にしたことがきっかけで

今年20周年を迎える世田谷日本語クラスは、学習者数(延べ人数)858名、学習者の国籍は66か国になります。

常に学習者、ボランティア支援者の数は流動的です。

来日する学習者の目的、動機はさまざま、その時代や、国際的政情を反映しているのを感じます。

会長が日本語クラスの設立を考えきっかけは、買った物をしてる外国人女性の姿を目にしたことでした。

お店の人とのコミュニケーションがとれずに困っている外国人女性が、少しでも日本語を話すことができたならどんなに助かるだろう。

そんな思いから、精力的に活動を始めました。

日本の社会にはさまざまな目に見えない約束事があり、日本語には外国語に翻訳しきれないニュアンスがあります。支援者たちは、どうしたら、この日本語が正しく伝わるだろうかと苦心しています。

学習者が納得できる説明をするのは本当に難しく、ときには互いに議論を交わしあい、その中で徐々に互いに心を開き、遠慮

しないで質問ができる場になっています。日本語クラスが学習者によって変化しているのも、面白い現象です。

学習者だけではなく、支援者も育てているのだと考えています。

毎回、授業の半ばでお茶とお菓子が出ます。リラックスできる雰囲気の中で、学習者同士、または担当する学習者以外の人と支援者が会話をする中で、思わぬ発見もあり、楽しい時間です。

また、年2回野外教室があります。学習者と支援者、そしてその家族が都内、都内近郊に観光、遠足をして楽しめます。

教室の最寄り駅は世田谷線の「世田谷」です。世田谷区役所の近くですが、ローカルな地域でのんびりした街です。

これからも、世田谷日本語クラスが楽しく続くよう願っています。



TNVN東京日本語ボランティア・ネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

- ◆日時：毎週金曜日午後2時～4時
第5金曜日／休み
- ◆場所
東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線-出口B2b)飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー
- ◆日本語ボランティア相談窓口
日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフが応えています。メール・電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えています。ご意見もお待ちしています。
〒162-0823
東京都新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4
- ◆TEL：03-3235-1171
(呼出：金曜日活動時間帯のみ)
- ◆FAX：03-3235-0050
- ◆E-mail：webadmin@tnvn.jp
- ◆URL：http://www.tnvn.jp/
- ◆郵便局払込
口座番号：00100-1-719259
加入者名:東京日本語ボランティア・ネットワーク
- ◆会員数(2018年12月14日現在)
正会員：90団体
個人協力会員：15名
賛助会員：3団体
- ◆編集／大木 千冬、岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利、神 歩、床呂 英一、林川 玲子、山内 眞理
- ◆レイアウト／美巧社

◎2018年度国際化市民フォーラムのご案内

都民に、国際交流・国際協力への理解を深めてもらう目的で、国際交流・協力TOKYO連絡会(注)が、毎年、国際化市民フォーラムを開いています。

2018年度の国際化市民フォーラムは、2019年2月16日(土)に、なかのZERO西館で開かれます。

このフォーラムは第1分科会：外国人相談、第2分科会：外国人の子どもの教育支援、第3分科会：やさしい日本語(わかる日本語)ワークショップ、第4分科会：国際協力と、四つの分科会に分かれて行われます。

第3分科会では、聖心女子大学の岩田一成先生に基調講演をしていただき、その後、「やさしい日本語(わかる日本

語)での会話」を中心テーマに、ワークショップを行う予定です。

このフォーラムは、広く一般の方々に参加をしていただき、外国人と共に暮らす社会の在り方を考えます。ご興味のある方の参加を期待しております。詳しくは東京都国際交流委員会のホームページ<https://www.tokyo-icc.jp/>をご覧ください。

注：国際交流・協力TOKYO連絡会は、NGO等の民間団体、都及び国際交流協会が対等な立場で意見や情報を交換し合い、パートナーシップを形成することにより、国際交流・協力及び地域国際化を推進することを目的としています。

◎「紙上教材」について

TNVNでは、ボランティア教室で使っていただく教材として、季節の行事を【わかる日本語】で紹介しております。

99号「お月見」、100号「お正月」、103号「果物狩り」と、ニュースレターが皆様のお手元に届く頃の季節の行事を取り上げてきました。

今回は「忘年会」を紹介しています。

この「紙上教材」をより良いものにしていく為、日本語学習に使って下さったボランティアの方々、又、記事を読んで下さったボランティアの方々、ご意見、ご感想を、メール(webadmin@tnvn.jp)でお寄せ下さい。よろしくお願ひします。

- ◆新会員紹介 中学生・高校生のための日本語教室(北区)
NPO法人新現役ネット しば日本語クラブ(港区)

column

縁を得た幸せ者

◇7時間余りの眠りから目覚めた。しかしふだんの朝とは違いICUから出たベッドの上。自分の存在を言えない気持ちで受け止めた。

早期に病状が分かり、手術に関わる医師・スタッフによって最善の処置・対応がなされ、家族に見守られて九死に一生を得た。

“まさに医は仁術で有る”

◇11日間の検査入院、自分には縁のないものと気にしなかったガン(癌)が見つかり、手術と術後の処置で40日に及び入院生活をしました。

術後、翌日から院内廊下の歩行が日課です。入院生活で、これまでは接する事のなかった人々との出会い、生きている事への思いは重いものでした。

◇昼間と夜間、細かな事まで面倒を見て下さる看護師さん。はじめに“○○さん”、処置をした後“有り難うございます”、痛くなると“ゴメンネ”、採血したとき“痛くないですか”看護師のやさしい心遣い。

◇TNVNでの活動を通して各地のボランティア日本語教室で活動している方々と接していますが、その中には大きな手術や治療を受け静養後、活動の場に復帰され、元気に活動されている方が何人もおられます。

◇ほぼ5ヵ月TNVNや関係先の皆さまにご迷惑を掛けましたが、元通りになるまで今暫く猶予をお願いします。

(梶村)